



2008年は移民100周年にあたり、ブラジル各地で祝い事が繰り返された。特にブラジルにおける日系人の農業の発展に於ける貢献が広く紹介され、賞賛された。当センターが存在するグアタパラは奇しくも笠戸丸移住者の781人のうち88人の配耕先であり、他の配耕地と異なり、多くが踏み止まったがため、第二陣の旅順丸移住者の後続もあった。それで現在、当時の移住者の子孫は皆無にもかかわらず、グアタパラこそ日本移民の原点であると主張する方は多い。

果たして、ここに100周年特別記念事業として、6300本のブラジル在来樹種を植林し、「日本ブラジル100年の森」が当センター内に造成された。6月の起工式の折には両国のJATAK関係者、来賓、各地と地元の移住地の代表、友人200名により100種類の木が植えられて、新しい100年を目指しての出発を祝った。10月には環境保護と経済林業との両立を目指す、山添源二氏提案の多目的造林の本格的試験林として、またその一部は戦後農業移住者を代表する、かつての「コチア青年」や地元移住者たちの出会いの場所として、植林祭も行なわれた。またその後の訪問者たちによる記念植樹など、まさに植樹の果たす役割は大きい。将来にはその価値は観光資源ともなり、本来伐採利用される時期に差し掛かると、再検討が余儀なくされることが予想される。

さて、当センターの情報部の研究員である田中規子氏がまとめたコロニア・ガイドブックは各移住地を観光地として光を当てた紹介書であり、時節がらを射た企画であった。

JATAKの使命は南米の日系農家の支援にあるが、この小冊子の読者が旅行心を掻き立てられて、グリーン・ツーリストとして農家と接触することにより、双方の得る満足度は決して低くはないはずである。

コロニア・ガイドブックが日本からの旅行者、ブラジル国内のコロニアの皆様にお役に立てれば無上の喜びとするものです。

2009年3月26日

JATAK 農業技術普及交流センター 所長
広瀬 哲洋